


# 自ら学び 豊かな心で たくましく生きる生徒

しただの郷学園  
下田中学校便り第6号  
令和4年10月13日発行



文責 校長 小林貴英



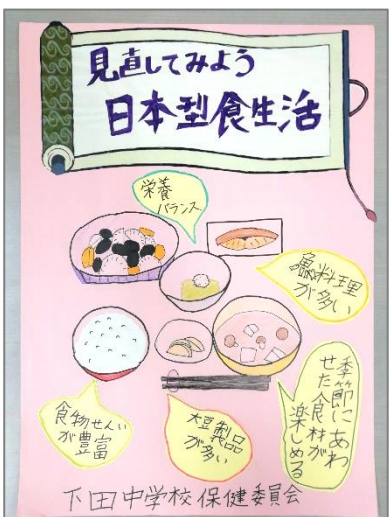
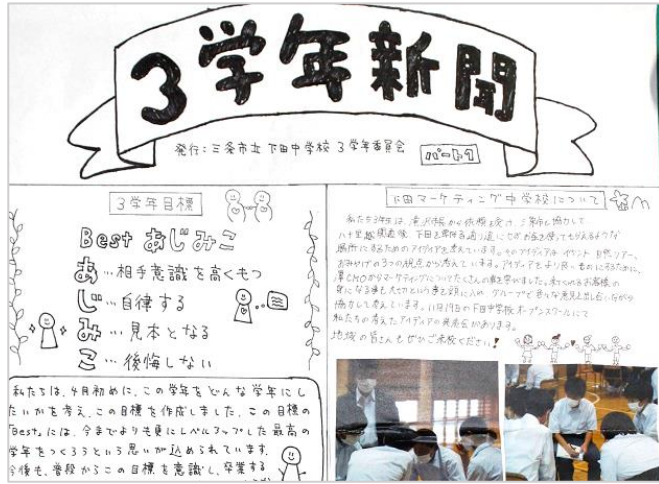
ホームページではカラー  
でご覧いただけます。→

## 「手書き」

下田中学校の生徒会専門委員会は、昨年度から「地域、社会、世界とつながる専門委員会活動」を活動の一つの柱として、各委員会の独自性を生かした活動を考え、実践しています。

これは、学校内の活動にとどまることなく学校外の世界を知ること、中学生として何ができるかを考えたり、自分や社会の将来を考えたりする姿勢をもつことをねらっています。

そんななか、3学年委員会は「学年新聞」を年2回発行しています。生徒が集めた情報を手書きで記事にまとめ、地域回覧板を通して情報発信しています。また、手書きのポスターを作成している委員会があります。保健委員会は健康ポスターを、生活委員会は交通安全ポスターを、それぞれ下田郷クリニック、学園内小学校に掲示させていただき、地域の方や小学生に啓発活動を行っています。



現代の私たちの生活場面のあちらこちらに、ワープロの文字やきれいにデザインされた絵柄のポスターが溢れていますが、上で紹介したものは、私たちの目や心に穏やかさや温もりを与えてくれる気がします。“手で書く”という行為はぜひ残していきたいものです。

生徒が毎日記入する“下田ノート（生活記録）”では、生徒と担任（学年職員）が手書きによるメッセージのキャッチボールをしています。

## “ノーチャイム” 始めました

下中生の生活の様子を見ていると、授業開始時には自席に着席しており、集会時も時間前に整列が完了しています。時計を見て行動することが習慣化していることから、2学期からチャイムを鳴らすことを止めました。（昼休みの終了、放課後活動の終了時を除く。） 自律的な行動につながる取組です。自分で判断したり仲間同士声を掛け合ったりして、心地良い集団づくりを進めます。



# 1年生、2年生 番屋山へ ～ 八十里越 体験 ～

体力、体調に合わせて3つのコースから選択し、八十里越を体験しました。最難関の番屋山頂上を通る周回コースは6時間の行程でした。ガイドの大竹晴義さんからの詳しい説明を聞きながら、下田の歴史の勉強もできました。道中では次のような声が聞こえてきました。「この先に只見町があるんだよね」「ここ歩くの？マジ？」「つらいんだけどなぜか楽しい」「山荘が見える！ここまで登ってきたんだ」「すべる～、怖いよ～！」

ボランティアスタッフとしてご協力いただいた八十里倶楽部の方々から感想をいただきました。「生徒さんたちの若いエネルギーをもらえ、気持ちよく活動できました」「生徒さんたちと和気あいあいと楽しく登れました」「またお手伝いしたいです」「さわやかなあいさつと笑顔、こちらの話に反応してくれる下中生でした」「素直な中学生に癒されました」「八十里越を中学生からも発信してほしいな」

好天の下、大自然の中でおしゃべりしたり、大声で歌ったりしながらの充実の一日でした。



険しい道のり



雨生ケ池

大竹晴義さん



番屋山頂上

吉ヶ平山荘到着

## 3年生修学旅行 ～スローガン『全力青春』～

出発式で実行委員長西川さんが「待ちに待った修学旅行」と話したように当初の予定からは6カ月遅れて、そして県内縦断と行程を大きく変えての実施となりました。“学校”“家庭・家族”という日常とは異なる時・空間を過ごした2泊3日。出発直後のバス車中では早々にカメラのシャッター音が聞こえてきました。主な訪問先での生徒の様子は…

○うみがたり水族館：様々な水生生物に引き寄せられるように観察！

イルカショーにも感嘆の声！

○新潟産業大学：学内見学を通して肌身で感じた上級学校の魅力！

学科内容は下田マーケティング中学校の実践に似通っている!?

○歴史博物館：無言で熱中した勾玉づくり。館内展示のリアルさは驚き！

○サントピアワールド：園内のアトラクションを堪能！「家族と友達とでは、なんで楽しさが違うんだろう？」全力で楽しむ下田っ子の無邪気さに私の心は洗われました。

○リゾートホテル&高層シティホテル：お部屋のリッチ感、お食事のゴージャス感を満喫。ホテルの方から『ご学友』『勉学に励まれて』などのお言葉とともに丁寧なおもてなしを受けました。

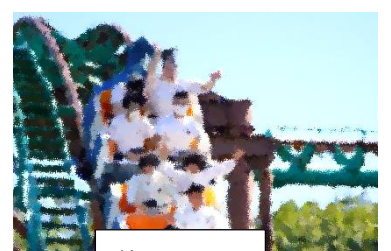
3年生にとってこの3日間は忘れられない一生の思い出になったと思います。保護者の皆様からみて3日ぶりのお子さんの姿に成長はあったのでしょうか？（教頭 吉成）



クラゲに魅了



緊張のテーブルマナー



絶叫～！